(本研究は共同研究又は産学連携を目指す研究です)

本研究のフェーズは、□基礎 ■基礎~臨床 □臨床 です

進行性多巣性白質脳症 –基礎と臨床の架け橋となる研究-

① 共同研究・産学連携への意気込み



准教授 宍戸 由紀子

進行性多巣性白質脳症の早期診断を実現し、病態解明 と正確な予後評価を目指しています。

② 想定される連携先・移転先

多発性硬化症や膠原病の臨床を行っている施設、神経系 の画像診断に力を入れている施設、免疫系に作用する薬 剤を扱っている企業など

キーワード

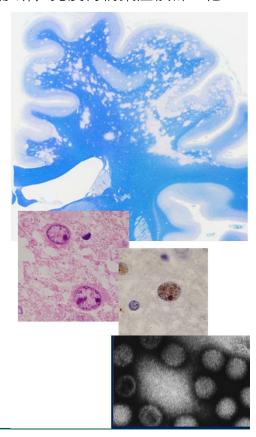
進行性多巣性白質脳症(PML)、JCウイルス、脳生検査、MRI画像診断、免疫再構築症候群 他

研究内容

進行性多巣性白質脳症(progressive multifocal leukoencephalopathy; PML)は、JCウイルス感染による脱髄疾患です。 JCウイルスは、人口の大半に潜伏・持続感染し、免疫能の低下 した宿主において再活性化し、重篤な脱髄脳症をきたします。 かつてはAIDSの合併症として知られていましたが、近年では多 発性硬化症(MS)の疾患修飾薬の他、膠原病などの治療(ステロ イドやMTXなど)に伴うJCウイルスの再活性化とPML発症が大 きな問題になっています。

AIDS時代のPMLは、亜急性に進行する極めて予後不良な疾患 として知られていましたが、多発性硬化症や膠原病患者さんに は、PMLを発症しても良好な予後を示す方が多くいることが解 かってきました。これは、AIDSと異なり、宿主免疫能が比較的 保たれているからだと推測されます。Non-AIDS PMLでは、ウ イルス量が少なく、宿主の免疫応答を伴うことが特徴です。

本研究では、PML早期診断と、正確な病態解明・予後評価を 目指しています。





問合せ先

TEL: 075-251-5168 FAX: 075-251-5275

情報・研究支援課 E-mail: kikaku01@koto.kpu-m.ac.jp